

2. 2 大鹿村中央構造線博物館・リンゴ農場の見学（地歴公民分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

自然災害が多発するだけでなく、今後の日本は気候変動や人口減少など、多くの課題をかかえる。その構造を理解するとともに、生徒自身が、科学技術や産業がこれらの課題にどう向き合っていくかを考える機会を設けるため、長野県で中央構造線についての学習とリンゴ農場の見学を行う。

(2) 研究開発の経緯

参加希望者のなかには地理を受講していない生徒もいたため、地理担当教員から中央構造線や農業についての事前レクチャーを行った上で、見学を実施した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は、中央構造線の真上に立つ博物館で日本列島の成立や地殻変動についての関心・理解を深めることができる。また、最新技術を利用した農業経営のあり方や今後の農業における課題について考察を深めることができる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 地理歴史・公民科

対象生徒 1・2年生

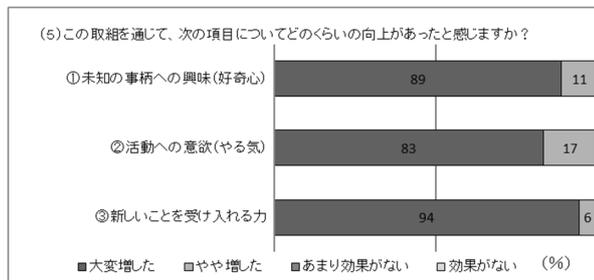
日時 10月30日(土)

実施場所 大鹿村中央構造線博物館（長野県下伊那郡大鹿村）
なかひら農場（長野県下伊那郡松川町）

実施内容

- ・中央構造線博物館学芸員による周辺地形や屋内施設の見学・解説
- ・リンゴ農家の取組についての解説と農場見学

ウ 検証（成果と反省）



リンゴ農場にて

生徒の感想より

- ・中央構造線を川の小石から感じ、地層の地図と目の前に広がる山々から学べて大変面白かったです。プレート同士の動きなど地理の学習で得た知識をもとに、理解が深まるお話で自分の世界が広がりました。
- ・最近の気候変動の問題やSDGsのことを知れば知るほど、個人ができることは少ないのだなと思わされますが、なかひら農場のようにそれぞれが意識して努力することも大切だと思いました。

アンケート結果や感想から、本事業を通して、未知の事柄への興味や意欲が高まったことがわかる。行先別のアンケート調査では博物館が83%、リンゴ農園は94%の生徒が、興味関心が「大変増した」と答えている。内容の理解度についても同様の傾向がみられた。博物館は農業に比べるとなじみがなく、予備知識がないと難しく感じたかもしれない。ただ、学芸員の解説は、博物館前の河原で岩石に触れ、山の地形を見ながら行われ、少なくとも身近な岩石が日本列島の成立に深く関わっているという実感は持つことができたのではないだろうか。リンゴ農園についても、自動草刈り機が走行する園内で、生徒が気候変動や後継者育成に対する農家の取組について解説を受ける光景は、これからの農業を示唆するようでもあり、生徒も様々な思いが交錯する機会となったと思われる。



河原で拾った石について解説をきく生徒